

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	子ども・子育てサポートセンターまなび舎			
○保護者評価実施期間	R7年 1月 1日		～	R7年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	65	(回答者数)	56
○従業者評価実施期間	R7年 1月 1日		～	R7年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数)	14
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・保護者との信頼関係	・通所の際に保護者への声掛け、フィードバック時の家庭での子どもの様子の聞き取りなどを積極的に行い、まなび舎が安心できる場所であり、保護者さんにとっての心の拠り所になれるよう心掛けている	・家庭支援に直結するようなアドバイスといったペアレントトレーニングをより充実させるために、研修などによる職員のスキルアップを図り、幅広い支援に繋がりたい
2	・活動プログラムの多様性	・前回の療育記録から利用者の現状を把握し、一人一人に合わせた最適なプログラムの立案を行っている ・職員や保護者との情報共有から、チームで話し合いを行い、保護者からの要望や利用児の課題を分析した上で、多角的視点をもって次の活動へと繋げている	・想定される様々なケースに応じた具体的な研修を行うことで、必要な支援の精度を上げる ・アセスメントとプログラムの立案をより強く紐づけることで、職員の負担軽減によるスピード化を図る
3	・職員間のチーム力	・昨年は課題になった職員間の情報共有不足が、皆が発言できる職員会議により、比較的改善されているように感じられた	・スモールミーティングを増やし、自身の職場内での役割をより強く意識してもらおうと共に、職員の自信を育てていけるように努める

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・個人の仕事量の増加	・細やかな支援を意識するため、必然と仕事量が増えてしまっている ・職員によって負担の差が生まれている	・ICTの積極的な活用や、業務の効率化を目標に、抜本的な業務効率化を図っていきたい
2	・事業所内研修の不足	・日々の業務に忙殺されがちで、ステップアップのための研修時間がなかなか取れていない	・ZOOMの利用やシフト調整など、出来るだけ多くの職員が研修に参加できるよう配慮していく
3			